

7 「視点」 大坪清 レンゴー会長兼社長

10 スペシャルインタビュー DNAの「第二主義」で圧倒的な未来をつくる 稲垣精二 第二生命ホールディングス社長

東京新起動

世界一の求心力へ

16 総論 二度目の変貌を遂げる大都市・東京

20 東京が生き残るために 磁力ある都市を創り育む 辻慎吾 森ビル社長

24 「虎ノ門」 虎ノ門エリアはグローバルビジネスセンターとして進化中

26 「日比谷」 東京ミッドタウン日比谷誕生で映画・演劇の街が再興

28 文化・歴史の蓄積を生かし東京の新たな求心力に 太田幸一 三井不動産日比谷街づくり推進部事業グループ統括

29 「渋谷」 文化の発信地「渋谷」の「スクランブル」を進める渋谷らしい街づくり

31 渡邊功 東京急行電鉄専務執行役員 鉄道事業本部都市創造本部担当

稲垣精二

第二生命ホールディングス社長

32 「品川新駅(仮称)」 泉岳寺・品川とも連携 品川新駅(仮称)のエキマチ一体開発

34 街全体を群として新たに開発 広域拠点として大きく発展 平野邦彦 東日本旅客鉄道常務執行役員 総合企画本部副本部長

35 「池袋」 城北、埼玉方面への玄関口は行政が積極的

36 拠点駅で新たな賑わい創出 地域との共生を進める 若林久 西武鉄道社長

72 特集2 今さら聞けない

ビットコイン

73 総論 可能性と危険性が共存するビットコインの魅力
74 暴騰・暴落、そして分裂騒ぎ ビットコインに何が起きている!?
77 ビットコインの2つの謎 ブロックチェーンとマイニング
78 家電量販店から風俗店まで ビットコインの買い方、使い方

81 ビットコインだけではない! 1千種類を超える仮想通貨の世界

84 光を見るか影を見るかで ビットコインの評価が決まる 沖田貴史 SBIリテラルアジア社長

86 ビットコイン用語の基礎知識

ビットコインを知る20のキーワード

レポート

40 若者のクルマ離れに抵抗する豊田章男の意地とプライド
43 ヤマトHDが人手不足よりも恐れる「送料無料」という意識
46 有機EL転換は避けられず 新生JDRは生き残れるか
49 シェール革命が動かす世界のパワーバランス

140 政知巡礼 特別編

解散総選挙とニッポンの未来

104 そこに歴史あり!

「栄光」と「名誉」の祭典を終えて東京はどうなる わたしの故郷「長野県」

98 熊谷正寿 GMOインターネット会長兼社長グループ代表

自慢のオフィス 林野宏 クレディセゾン社長

トレンドインタビュー

52 チャレンジャーの気持ちで、世の中にない商品を訴求する

治山正史 はるやまホールディングス社長

54 「ありがとうを広げる」を理念に独自の商品で健康づくりをサポート 目床明彦 フォーシーズン社長

56 目まぐるしく変化する消費環境を、気づき経営の実践で業容拡大に 川西修 幸南食糧会長

59 京都賞 京都賞に込められた稲盛和夫の「生き方」

148 燦々トーク ゲスト 櫻田厚 モスフードサービス会長
132 著者が語るほんのヒトトキ 「SNSで夢を叶える」 ゆうこうす(菅本裕子)
89 特別企画 新時代の資産運用法
136 FACE 宮島裕二 モバイルファクトリー社長

98 自慢のオフィス

林野宏 クレディセゾン社長

トレンドインタビュー

52 チャレンジャーの気持ちで、世の中にない商品を訴求する

治山正史 はるやまホールディングス社長

54 「ありがとうを広げる」を理念に独自の商品で健康づくりをサポート 目床明彦 フォーシーズン社長

56 目まぐるしく変化する消費環境を、気づき経営の実践で業容拡大に 川西修 幸南食糧会長

59 京都賞 京都賞に込められた稲盛和夫の「生き方」

連載

- 62 深読み経済ニュース解説 ● 三橋貴明
- 64 WORLD INSIGHT ● 藤田 勉
- 66 中東を読む ● 高橋和夫
- 67 中国は今 ● 柯 隆
- 68 ニューヨークレポート ● 津山恵子
- 69 インド市場を知る ● 帝羽ニルマラ純子
- 102 経済界倶楽部 東京・横浜9月例会
- 106 永田町ウォッチング ● 山田厚俊
- 108 霞が関番記者レポート
- 112 年収1億円の流儀 ● 江上 治
- 114 女の選択 ● 水無田気流
- 116 ゴルフここが聞きたい ● 中村龍明
- 118 Dr.加藤俊徳の脳番地塾
- 119 100年人生マネジメント ● 藤田敏一郎
- 120 スポーツインサイドアウト ● 二宮清純
- 122 イノベーターズ
- 124 企業EYE
- 130 HEADLINE
- 133 書評
- 134 エンタメK
- 150 From EDITOR

経済界

2017.12 No.1097

経営者のためのビジネス情報サイト「経済界電子版」

http://net.keizaikai.co.jp PCだけでなく、スマートフォンとタブレットにも対応しています。

表紙デザイン=アートディレクター 陶山 浩 本文デザイン=オオノデザイン

「DNAの『第二主義』で 圧倒的な未来をつくる」

第一生命ホールディングス社長

稲垣精二

昨年10月、大手生命保険会社初の持ち株会社制に移行した第一生命ホールディングス。そしてこの4月に新社長が誕生、体制、人事ともに一新された。経営を託された稲垣精二社長は1963年生まれで金融業界では最も若い経営トップだが、「年齢は気にしない。むしろ思い切った変革にチャレンジしろということ」と抱負を語る。その稲垣氏に、第一生命の今後のビジョンを聞いた。

低金利時代に対応し

運用スキルを上げていく

—— 社長就任から6カ月。発表から10カ月がたちました。いざ社長になると予想外のこともあったのではないですか。

稲垣 予想外というのではないのですが、4月以降、私のキャリアの中ではあまりお会いできていなかった法人のお客さま、そして日々、活動している生涯設計デザイナー（営業員）などいろんな方とお会いして、第一生命は多くの人たちに支えられていることがあらためてよく分かりました。たくさんのお客さまのサポートがあり、生涯設計デザイナーの明る

2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据えて、東京の至るところで開発が行われている。そのオリンピック開催まで今年10月28日でちょうど1000日となる。今後開発が加速する中で、2度目のオリンピックは東京に何をもたらすのか。東京の今後を展望する。

本誌 / 村田晋一郎



特集

東京

～世界一の



起動

求心力へ～

総論

二度目の変貌を遂げる 大都市・東京

戦後復興としての 64年オリンピック

1964年の東京オリンピックは日本の戦後復興の象徴であった。経済企画庁の経済白書の中で「もはや戦後ではない」と書かれたのが、敗戦から11年後の56年。それから8年後に東洋で初めてのオリンピックが開催された。

オリンピックの開催にはインフラ整備や運営のため、一定の経済水準が必要となる。それゆえ、オリンピックは途上国にとっては「国威発揚」の非常に重要な舞台である。経済成長を果たしてオリンピックを開催できるレベルになった頃に、国威発揚のために開催地に立候補する。成功すれば晴れて途上

国を卒業する。

64年の東京オリンピックは、オリンピックをきっかけに、東京という首都を整備し、日本という国を先進国並みにつくり変えることを目的としたものだった。そして当時の日本人にとっては、戦後の総決算の意味を持ち、国際社会での自信を回復す

提供:東京急行電鉄



渋谷駅周辺航空写真